

第16回防災文化講演会「災害と健康・医療」を気仙沼市で開催しました(2017/1/21)

テーマ：災害と健康・医療

場所：気仙沼中央公民館（宮城県気仙沼市）

1月21日（土）の午後、気仙沼中央公民館（宮城県気仙沼市）において、「災害と健康・医療」をテーマに第16回防災文化講演会（主催：東北大学災害科学国際研究所，共催：気仙沼市）を開催しました。当研究所は2013年7月に「気仙沼市と国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定」を締結するとともに、気仙沼分室（通称：気仙沼サテライト）を気仙沼市内に設置して、防災・減災や復興の推進に連携して取り組んできました。防災文化講演会はこのたび16回目を数え、地域の皆様との情報交流を続けてまいりました。

今回の講演会では佐々木宏之助教（災害医学研究部門）と片柳光昭氏（公益社団法人宮城県精神保健福祉協会みやぎ心のケアセンター気仙沼地域センター地域支援課長）が講演を行いました。

講演内容

佐々木 宏之 「災害医療こぼれ話 ～受援計画，DMAT，熊本地震などなど～」

片柳 光昭 「震災から5年のメンタルヘルスについて」

佐々木助教は、災害医療の基礎的概念，DMAT（災害派遣医療チーム）の役割と，ご自身の熊本地震における活動内容，支援を受ける病院の体制についての講演を行いました。片柳氏はみやぎ心のケアセンターの活動内容や震災後毎年の気仙沼地域における年齢層，性別，住宅環境ごとの相談内容の変化，平時からのメンタルヘルスケアについての理解の重要性とおとぎ話を使用しての啓蒙活動などについて講演を行いました。

講演会にはマスコミ関係者や行政関係者，医療関係者などを含む市民の方々が約35名参加し，来場の方々からは様々なご意見・ご質問を頂きました。



佐々木助教の講演



片柳氏の講演

災害科学国際研究所では，本研究所が取り組む災害科学研究の成果や，防災・減災に関する情報を発信するため，「防災文化講演会」を継続的に開催してきました。今後も，情報発信とともに地域の皆様と災害への備えを考えて参ります。

文責：笠原 好之（災害医学研究部門）